

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書
—平成24年度実績—

平成25年9月
栗原市教育委員会

目次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
幼稚園の教育	
創意に満ちた信頼される園経営の推進、一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	
家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	7
子育て支援等の多様なニーズへの対応	9
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	11
小・中学校の教育	
創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	12
学力向上を図る学習指導の工夫改善	14
特別支援教育の充実	16
家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	18
社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	19
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	21
道徳教育の充実と推進	23
健やかな体を培う体育・健康教育の充実	25
自らの命を守るための防災教育の推進	27
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供（学びの連続性）	
幼児期（芽生え期）	28
青少年期（成長期）	30
成年期（成熟期）	32
社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	33
国際理解のための学習や機会の提供	35
文化芸術の推進	36
文化財の保存・愛護と活用の推進	37
スポーツ活動の推進	39
3 学識経験者の意見	40
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	42

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

教育委員会の事務の管理及び執行の点検・評価報告書は、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況についての点検・評価が義務付けられたことにより実施するものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取り組みの方向性を明らかにし、また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図る。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第27条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定された。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定した。教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定した。

○ 田幡 憲一 氏 【専門領域】 教科等指導法
【研究テーマ】 理科教育、教師教育
【現在】 宮城教育大学教職大学院教授

○ 久保 順也 氏 【専門領域】 臨床心理学
【研究テーマ】 家族療法・短期療法・ナラティブセラピー
【現在】 宮城教育大学准教授

(3) 点検及び評価の対象

平成24年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会で実施した事務事業について、点検及び評価を行った。

平成24年度 栗原市教育基本方針

急速な社会変革が進む中、「栗原市総合計画」では、市の将来像として「豊かな感性と生きる力を育むまち」の創造をめざしている。

これを受け、栗原市教育委員会は、学びの連続性を重視した「学府くりはら」を推進するとともに、豊かな感性と創造性をもち主体的に生きる人間を育成することをめざし、次のことを重点に取り組む。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術
- 楽しさと活力ある生涯スポーツ

教育の基本目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の基本目標

- 確かな学力を育成する
- 豊かな心を育む
- 心身の健康と体力の向上を図る

めざす『栗原っ子』像

- ・ 好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・ 感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・ 心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の基本目標

- いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の推進
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【確かな学力を育成する】

幼稚園の教育

創意に満ち信頼される園経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼児・家庭・地域の実態と課題に応じた創意ある教育課程の編成と実施 ② 幼児の発達の特徴を踏まえた興味・関心・意欲を引き出す指導計画の作成と実施 ③ 障害のある幼児に対する個別の指導計画の作成・実施と園内支援体制の構築
一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的な遊びや体験を通じた課題の発見・課題解決能力の育成 ② 心身の発達と生活体験に即し、道徳性や思いやりの心等の社会性の育成 ③ 基本的な生活習慣や主体的な生活態度、集団生活の基礎等の育成 ④ 幼児の主体的な活動を促す教育環境の整備と施設・設備の充実
家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 情報交換を密にした、園と家庭・地域との連携の強化 ② 小学校教育への円滑な接続・連携、他の幼稚園や保育所、高齢者や地域の団体等との交流やふれあいの場の充実 ③ 教育活動、園運営等の学校評価の実施と結果の公表 ④ 学校評議員制度の導入と地域に開かれた園経営・運営の充実 ⑤ 幼児の安全確保に向けた、危機管理体制の確立と関係機関との連携の強化
子育て支援等の多様なニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の幼児教育の支援センターとしての役割を果たし、家庭・地域における子育て支援の推進 ② 預かり保育の環境の整備と保育内容の充実 ③ 幼稚園・保育所の目標や保育内容の一元化を図るカリキュラムの作成
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼稚園教諭としての専門性を高める研修の推進 ② 幼児一人一人の発達を促す指導方法や活動形態等の工夫改善 ③ 園の教育課題の解決や実践的指導力を高める園内研究の推進 ④ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実

小・中学校の教育

創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実 ② 「生きる力」を育む創意と特色ある教育課程の編成と実施 ③ 学校の説明責任を明確にし、保護者・地域との相互理解と協力体制の構築 ④ 教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営の展開 ⑤ 小学校複式学級における指導方法の工夫改善 ⑥ 児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備 ⑦ 学校間（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）の積極的な連携 ⑧ 学校再編における円滑な学校運営
学力の向上を図る学習指導の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る指導の充実 ② 各教科・領域における知識・技能の活用する学習活動と言語活動の充実 ③ 児童生徒の実態や特性等に応じた補足的な学習や発展的な学習の充実 ④ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力を高める体験的・問題解決的な学習の充実 ⑤ 総合的な学習の時間と各教科の関連を図ることによる主体的な学習態度の育成 ⑥ 家庭との連携による自主的学習の習慣化と家庭学習や読書の定着 ⑦ 学習指導に関するPDCAサイクルの確立〈計画（P）・実践（D）・評価（C）・改善（A）〉 ⑧ 教員や教科の特性を生かした教科担任制や少人数指導の工夫と実施 ⑨ 教育効果を高めるための教材開発と研修の充実及び学校施設・設備の活用と整備
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 障害のある児童生徒の理解を深め、自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため支援学校等関係機関との連携の充実 ② 「特別支援学級」や「通級による指導」の弾力的運用等や個別の指導計画の活用及び特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築 ③ 特別支援教育担当教員の研修と専門性の確保 ④ 「通級による指導」を含めた適切な就学指導の在り方の検討

家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と教育活動の積極的な公開 ② 保護者・地域の教育力（人材・教材）の積極的な活用と学校施設等の開放 ③ 教育活動、学校運営等の学校評価の実施と結果の公表 ④ 学校評議員制の積極的な活用と地域に開かれた学校経営・運営の充実
社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境問題に関心をもち、進んで課題解決に取り組む態度を育てる環境教育の充実 ② 情報活用能力の育成や情報モラルの向上を図る情報教育の推進と個人情報の保護 ③ 福祉に対する理解と関心を深め、主体的に取り組む実践的態度を育てる福祉教育の充実 ④ 日本及び外国の文化や伝統に対する理解とコミュニケーション能力の素地を養う外国語活動の充実 ⑤ 社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取組が必要かなどについてより深く考えさせる志教育の充実と推進 ⑥ 自己の進路に目的意識をもち、個性・適性を生かそうとする態度を育てるキャリア教育の充実（職場体験、起業教育等への取組） ⑦ 読書活動の推進と読書環境の整備充実
教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎的・基本的な内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法改善の研修の推進 ② 自校の教育課題の解決や実践的指導力を高める校内研究の推進 ③ 教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実

【豊かな心を育む】

道徳教育の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との連携を図り、社会体験や自然体験等の体験活動を生かした道徳教育の充実 ② 児童生徒の理解を基盤とした人間性豊かな心と主体的・自律的な態度の育成 ③ 「早寝・早起き・朝ごはん」と「家庭学習」を基軸とした基本的な生活習慣の形成 ④ 自己指導能力の育成と共感的な人間関係の確立を図る積極的な生徒指導の推進 ⑤ みやぎアドベンチャープログラム（MAP※）の推進及びスクールカウンセラー・教育相談員等との連携による学校生活への適応指導の充実 ⑥ 不登校、いじめ等、学校不適応への適切な対応 <p>※MAP…豊かな人間関係を構築するための体験を取り入れた学習指導法の一つであり、宮城県独自の教育手法である。具体的には、グループで活動することを基本とし、協力しないと解決できない課題を与えることで、必然的に関わり合わなければならない環境をつくり出す。そして、課題を解決していくためには、話し合うことや、自分が思っていることを正直に表現する必要があることに気付かせる。さらに、話し合いや自分の考えを表現するためには、それを受け入れてくれる安全で互いを最大限尊重し合える環境が必要だということに気付かせていこうとするプログラムである。</p>
------------	--

【心身の健康と体力の向上を図る】

健やかな体を培う体育・健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 心身の健康と安全な生活及び交通安全の指導の強化 ③ 給食指導及び施設設備の充実と地産地消の推進 ④ 学校栄養士や地域人材と連携した食育の推進 ⑤ 学校保健活動の活性化とカウンセラー等との連携による適応指導の推進 ⑥ 運動部活動、地域のスポーツクラブや体育行事への参加の奨励と事故の未然防止
自らの命を守るための防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 危険を予知し、回避する能力を高めるための防災教育の推進 ② 防災の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実 ③ 地域の避難拠点としての校内体制の整備 ④ 児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との連携の強化

社会教育の具体的施策

【いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供 幼児期（芽生え期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 幼児及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
生涯にわたる学習機会の提供 青少年期（成長期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 子育て支援の充実 ② 地域少年団体活動の育成、支援 ③ 少年教育推進体制の整備 ④ 協働教育事業の推進（事業取り組みを推進・ボランティアの育成と活用） ⑤ 青年団体及びサークルの育成、支援 ⑥ 青年教育推進体制の整備 ⑦ 学習、交流活動の機会と場の提供 ⑧ 団体指導者の育成強化
生涯にわたる学習機会の提供 成年期（成熟期）	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習、交流活動の機会と場の提供 ② 成人教育体制の整備 ③ 指導者の養成と活動の場の提供 ④ 生涯学習団体等の育成、支援 ⑤ 高齢者の健康・生きがいつくり事業の展開
社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズ把握のための調査 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ 文化芸術を生かした活動の推進と自主的活動への支援 ⑦ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑧ 社会教育関係職員の研修機会の充実と専門職員の養成
国際理解のための学習や機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 学校、地域と連携した交流活動の推進 ④ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした芸術文化の推進】

文化芸術の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化芸術団体の育成、支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 体験機会の拡充 ④ 伝統の継承と普及活動への支援 ⑤ 文化施設の設備充実と環境整備
---------	---

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・愛護と活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の文化財の発掘、保存活用と公開 ② 史跡の公有化と環境整備の推進 ③ 文化財に対する理解と愛着を深めるための広報活動の充実
-----------------	---

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツの場の提供と、市民が行う健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの組織づくりへの支援と指導者の育成 ⑤ 学校との連携強化
-----------	--

点検及び評価項目一覧（平成24年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、 生きる力を育む学校	確かな学力を育成する (幼稚園教育)	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進	1 「幼稚園補助教諭等配置事業」「個別の指導計画作成」	B
			2 「防災マニュアルの作成」	B
		子育て支援等の多様なニーズへの対応	3 「幼稚園預かり保育事業」	B
			4 「幼稚園就園奨励事業」	B
	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		5 「10年経験者研修」「初任者研修」	B
	確かな学力を育成する (小・中学校教育)	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進	6 「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」	A
			7 「学校教育施設の整備」	B
		学力の向上を図る学習指導の工夫改善	8 「確かな学力・輝きプラン」	B
			9 「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	B
		特別支援教育の充実	10 「特別支援連絡協議会」	B
			11 「特別支援教育コーディネーター会議」	B
		家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進	12 「学校評価の実施」「学校評議員制度の活用」「学校公開事業」	A
		社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進	13 「志教育支援事業」	B
		教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実	14 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」	B
			15 「学力向上支援事業及び校内研修」	B
	豊かな心を育む	道徳教育の充実と推進	16 「学力向上講演会」	B
			17 「教育相談員」「スクールカウンセラーの配置」「適応指導教室事業」	A
	心身の健康と体力の向上を図る	健やかな体を培う体育・健康教育の充実	18 「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」	A
			19 「学校訪問指導事業」	B
		自らの命を守るための防災教育の推進	20 「夏季休業中プール開放事業」	B
			21 「防災マニュアルの作成」	B
共に助け合い潤いに 満ちた地域社会	いつでも、どこでも、だれでも 学べる生涯学習の推進と学びを 生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供（1）幼児期（芽生え期）	22 「家庭教育学級」	B
		（2）青少年期（成長期）	23 「サポーター養成」「ブックスタート事業」	B
			24 「ジュニアリーダー育成事業・派遣事業」	B
		（3）成年期（成熟期）	25 「少年体験教室・青少年育成団体との連携・育成者の支援」	B
			26 「講演会・シニアセミナー・レディースカレッジ等」	B
		社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援	27 「学習まつり・芸能祭・文化祭」	B
	国際理解のための学習や機会の提供	28 「協働教育コーディネーター研修会」「学校支援ボランティア実践発表会」	B	
地域の特性を生かした かおり高い文化芸術	地域に根ざした芸術文化の推進	文化芸術の推進	29 「青空大使派遣事業」	B
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保護・愛護と活用の推進	30 「見てけらいん美術展ほか、各種展覧会」「音楽アウトリーチほか、各種芸術鑑賞会」	B
楽しさと活力ある生涯 スポーツ	心身の健康保持増進とスポーツ の推進	スポーツ活動の推進	31 「埋蔵文化財発掘調査事業」「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」	B
			32 「史跡伊治城跡調査事業」「文化財保護保存事業」	B
			33 「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」「体力・運動能力調査」	B

2 点検・評価の結果

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)				
	具体的施策	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進		担当課 学校教育課				
1 目的								
幼児・家庭・地域の実態と課題に応じた創意ある教育課程の編成と実施に努め、基本的な生活習慣や主体的な生活態度、集団生活の基礎を育成する。								
2 具体的事業								
施策を構成する事業								
1 「幼稚園補助教諭等配置事業」 「個別の指導計画作成」								
事業概要								
障害のある幼児に対する個別の指導計画を整備し、その計画に基づいたきめ細かな指導を行うとともに、園内支援体制構築のため、市内幼稚園に必要な応じた補助教諭等を配置し、教育活動の補助と安全確保を充実させて、園児の健全育成を図る。								
3 平成24年度の取り組みと自己評価								
取り組みと成果								
補助教諭等を配置することにより、多くの目で園児を見守ることができた。								
配置幼稚園数	欠員補充	障害児対応	産休病休代替	補助員(障害児)	預かり対応	補助員(預かり)	看護師(准看護師)	合計
17園	8人	22人	2人	7人	10人	7人	3人	59人
※ 市内幼稚園数 20園 (うち3園休園)								
個別の指導計画の整備率は35.3%であった。								
評価								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。							
	B 概ね計画どおり目標が達成された。							
	C 課題があり、改善を要する。							
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針								
障害のある子どもに対する個別の指導計画の作成が十分でない。			➡	特別な支援が必要と考えられる子どもに対する個別の指導計画の整備率35.3%を80.0%まで拡大する。				
5 学識経験者の意見								
障害のある児童の発達支援のためには、早期からの個別の指導計画に基づいた教育が重要である。障害のある児童に係る個別の指導計画を作成し、きめ細かい保育をおこなうためには、幼稚園教諭、同補助教員の配置を徹底していくことが大切である。								

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)
	具体的施策	創意に満ち信頼される園経営の推進 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実 家庭や地域社会、関係機関との緊密な連携の推進		担当課 学校教育課

1 目的

災害時等における幼児の安全確保に向けて、危機管理体制の確立と関係機関との連携強化を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

2 「防災マニュアルの作成」

事業概要

幼児の安全確保に向けた危機管理体制の確立を図るため、園ごとに防災マニュアルを作成するとともに、関係機関との連携強化を図りながら防災にかかわる啓発を防災主任をとおして行う。

3 平成24年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

防災マニュアルの整備率は100%であり、また、避難訓練も全ての幼稚園で実施された。

避難訓練の実施状況（数値は、年間の訓練回数）

	地震想定	火災想定	不審者対応	地域との連携		地震想定	火災想定	不審者対応	地域との連携
築館幼稚園	3	4	1	消防署	栗駒幼稚園	2	2	2	警察署
玉沢幼稚園	1	1	1		鳥矢崎幼稚園	1	1	1	消防署
宮野幼稚園	1	1	0		高清水幼稚園	1	3	1	
富野幼稚園	休園				一迫幼稚園	1	1	1	
若柳幼稚園	1	1	1		金田幼稚園	1	1	1	警察署
有賀幼稚園	休園				瀬峰幼稚園	4	5	2	引き渡し(保護者)
大岡幼稚園	休園				鶯沢幼稚園	4	4	2	警察署、消防署
畑岡幼稚園	1	1	1	消防署	金成幼稚園	4	3	3	消防署
岩ヶ崎幼稚園	2	4	2		ふたば幼稚園	1	3	2	
尾松幼稚園	3	2	1		花山幼稚園	6	5	1	消防署、危機管理室

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

幼稚園だけの避難訓練ではなく、地域と連携した避難訓練が必要である。



小・中学校と連携し、地域との避難訓練の実施に向けて検討する。

5 学識経験者の意見

すべての幼稚園で防災マニュアルが作成され、避難訓練が行われたことは評価できる。地域との連携は重要な課題であるが、(1) 飽くまで幼稚園児そして教職員の安全のための連携であることを確認しつつ体制をつくること、(2) 地域の状況は年ごとに変わるので不断の見直しを前提とすること、が大切である。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)
	具体的施策	子育て支援等の多様なニーズへの対応		担当課 学校教育課

1 目的

利用者ニーズの多様化に対応するため、幼稚園の教育時間終了後、家庭において保育に欠ける園児を対象に預かり保育を実施し、園児の心身の健全な発達を図るとともに、子育て支援の充実を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業

3 「幼稚園預かり保育事業」

事業概要

幼稚園の教育時間終了後及び長期休業時において、保育に欠ける園児を対象に、市立7幼稚園で預かり保育を実施する。また、保護者等が急病や何らかの理由により一時的に保育に欠ける園児を対象に、一時預かり保育を行い、保護者の不安を解消する。

3 平成24年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加し、利用者ニーズも多岐にわたってきている。平成24年度は、これまでの定員の見直しを行い、利用者の受け入れを拡大したほか、預かり保育の終了時刻を30分延長し、サービスの向上を図った。
平成24年5月1日現在

●見直し内容

定員 210人 → 270人

終了時刻 午後6時 → 午後6時30分

	預かり保育 実施幼稚園	定員	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1	築館	40人			47人	47人
2	若柳	40人			38人	38人
3	岩ヶ崎	40人		18人	19人	37人
4	尾松	30人		19人	12人	31人
5	一迫	50人		20人	26人	46人
6	ふたば	60人	22人	23人	22人	67人
7	花山	10人	5人	4人	3人	12人
	合計	270人	27人	84人	167人	278人

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。

B 概ね計画どおり目標が達成された。

C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針


保護者の就業時間が多様化し、朝の早い時間から預かり保育の要望がある。



平成25年度は、長期休業中の預かり保育開始時刻を午前8時から午前7時30分に早める。


5 学識経験者の意見

高齢化する社会において、多様な子育て支援の一環として預かり保育の制度を拡充することは、地域社会の年齢構成の適正化とともに、老人に対する介護を支援するためにも重要である。幼稚園教員の加重負担とならないよう、教諭、補助教員の適正な配置に配慮しつつ、拡充されたい。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)																			
	具体的施策	子育て支援等の多様なニーズへの対応		担当課 学校教育課																			
1 目的																							
公立及び私立幼稚園に在園する園児の保護者に対し、所得に応じて、就園上の経済的負担の軽減を図る。また、私立幼稚園の教育条件の維持・向上並びに就園及び幼稚園運営に必要な補助を行い、子育て支援策の充実を図る。																							
2 具体的事業																							
施策を構成する事業																							
4「幼稚園就園奨励事業」																							
事業概要																							
公立幼稚園に通園する低所得世帯の保護者に対して授業料を減免し、保護者の経済的負担の軽減を図る。 また、私立幼稚園に対しては、私立幼稚園就園奨励費補助金を交付し、保護者の経済的負担の軽減を図るとともに、私立幼稚園経営安定のため、私立幼稚園運営費補助金を交付する。																							
3 平成24年度の取り組みと自己評価																							
取り組みと成果																							
公立幼稚園及び私立幼稚園に通園する園児の保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、私立幼稚園の運営の安定に寄与した。																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">幼稚園就園奨励費補助金</th> <th colspan="2">私立幼稚園運営費補助金</th> </tr> <tr> <th>対象人数</th> <th>金額</th> <th>対象園数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公立幼稚園</td> <td>28人</td> <td>(減免額) 860,000円</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>私立幼稚園</td> <td>78人</td> <td>(補助金) 7,712,500円</td> <td>2園</td> <td>(補助金) 1,400,000円</td> </tr> </tbody> </table>					項目	幼稚園就園奨励費補助金		私立幼稚園運営費補助金		対象人数	金額	対象園数	金額	公立幼稚園	28人	(減免額) 860,000円	—	—	私立幼稚園	78人	(補助金) 7,712,500円	2園	(補助金) 1,400,000円
項目	幼稚園就園奨励費補助金		私立幼稚園運営費補助金																				
	対象人数	金額	対象園数	金額																			
公立幼稚園	28人	(減免額) 860,000円	—	—																			
私立幼稚園	78人	(補助金) 7,712,500円	2園	(補助金) 1,400,000円																			
評価																							
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																						
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																							
なし 																							
5 学識経験者の意見																							
保護者が、やむを得ずして私立幼稚園に子を就園させることもあり、私立幼稚園により厚い支援を行うことは、教育の機会均等を目指す面からも重要な施策である。																							

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (幼稚園教育)
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
幼稚園教諭としての専門性を高める研修を推進するとともに、幼児一人ひとりの発達を促す指導方法や活動形態等の工夫改善を図る。 園の教育課題の解決や実践的指導力を高める園内研究の推進するとともに、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
5「10年経験者研修」「初任者研修」				
事業概要				
幼稚園教諭としての専門性を高めるため、10年経験者及び初任者に対し、研修に関する支援や指導を行う。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
10年経験者研修及び初任者研修を実施したところ、該当教諭全員が熱心に研修に取り組み、研修を修了することができた。				
	対象者数	共通研修	選択研修	園内研修
10年研	5人	6日	3～5日	10日
<ul style="list-style-type: none"> ・宮城教育大学附属幼稚園公開研修会参観 ・テーマ研究発表会等 				
	対象者数	園外研修	園内研修	
初任研	4人	9日	10日	
<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用教員として ・子どもの心のケア等 				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
階層別研修だけでなく、職員同士が学び合う機会を作ることも必要である。		➡	各幼稚園の指導主事訪問等に積極的に参加し、相互に学び合う機会を作る。	
5 学識経験者の意見				
指導主事訪問の際に研究保育を行い、他の幼稚園の教員が参観することは、地域の教育の活性化のために重要である。このような活動に、私立幼稚園の教員の参加を積極的に推進することも必要である。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)														
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進		担当課 教育環境推進室														
1 目的																		
<p>保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実を図るため、教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営のもと、創意と特色ある教育課程の編制と実践を通して、「生きる力」を育む。</p> <p>また、学校の説明責任を明確にし、保護者・地域との相互理解と協力体制を構築する。</p> <p>さらに、学校再編における円滑な学校運営を行うとともに、児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備を進める。</p>																		
2 具体的事業																		
施策を構成する事業																		
6「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」																		
事業概要																		
<p>少子化の影響で園児・児童生徒数が減少し小規模化が進行している。小中学校等における社会性の涵養や教育内容の質的な充実を図るため、学校再編により適正規模を確保するとともに、より良い教育環境の整備と円滑な学校運営のため、将来的な園児・児童生徒数の推移などを考慮して適正配置に努める。</p>																		
3 平成24年度の取り組みと自己評価																		
取り組みと成果																		
<p>栗原市立学校再編計画に基づき、保護者を含む地域住民の合意が整った地区ごとに、新学校の開校に向けて準備を進めてきた。</p> <p>また、栗原市立学校再編計画 実施計画<後期計画>の見直しを行い、素案をまとめ、パブリックコメントまで終えている。</p> <p>平成25年4月開校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>新学校名</th> <th>再編対象校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>若柳地区</td> <td>若柳小学校</td> <td>若柳小学校、大目小学校、有賀小学校、大岡小学校、畑岡小学校</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">栗駒地区</td> <td>栗駒小学校</td> <td>岩ヶ崎小学校、栗駒小学校、鳥矢崎小学校</td> </tr> <tr> <td>栗駒中学校</td> <td>栗駒中学校、鶯沢中学校</td> </tr> <tr> <td>一迫地区</td> <td>一迫小学校</td> <td>一迫小学校、姫松小学校、金田小学校、長崎小学校</td> </tr> </tbody> </table>					地区名	新学校名	再編対象校	若柳地区	若柳小学校	若柳小学校、大目小学校、有賀小学校、大岡小学校、畑岡小学校	栗駒地区	栗駒小学校	岩ヶ崎小学校、栗駒小学校、鳥矢崎小学校	栗駒中学校	栗駒中学校、鶯沢中学校	一迫地区	一迫小学校	一迫小学校、姫松小学校、金田小学校、長崎小学校
地区名	新学校名	再編対象校																
若柳地区	若柳小学校	若柳小学校、大目小学校、有賀小学校、大岡小学校、畑岡小学校																
栗駒地区	栗駒小学校	岩ヶ崎小学校、栗駒小学校、鳥矢崎小学校																
	栗駒中学校	栗駒中学校、鶯沢中学校																
一迫地区	一迫小学校	一迫小学校、姫松小学校、金田小学校、長崎小学校																
評価																		
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>																	
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																		
後期計画の決定までの手続きを確実に進める必要がある。		➡	後期計画を決定し、説明・意見交換会を実施していく。															
5 学識経験者の意見																		
<p>学校再編は、子どもたちを適切に育成するためには、適切な内容の授業執行や子どもたちの社会性の涵養のために重要である。一方、教員も恒常的に成長し続けることが必要な職種であり、適切な教員研修体制の構築のためにも重要である。</p>																		

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校づくりの推進		担当課 教育総務課 教育環境推進室
1 目的				
<p>保護者・地域の期待や願いを把握し、明確な理念と方針に基づいた学校経営の充実を図るため、教育目標具現化に向けた機能的な校内組織の構築と協働的な学校運営のもと、創意と特色ある教育課程の編制と実践を通して、「生きる力」を育む。</p> <p>また、学校の説明責任を明確にし、保護者・地域との相互理解と協力体制を構築する。</p> <p>さらに、学校再編における円滑な学校運営を行うとともに、児童生徒が生き生きと活動する教育環境の整備を進める。</p>				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
7「学校教育施設の整備」				
事業概要				
<p>児童生徒が生き生きと活動するためには教育環境の整備が必須であることから、経年劣化等による老朽学校教育施設の改築工事や大規模改修工事を行い、施設の長寿命化、安全確保に努める。併せて、学校再編に伴い必要となる学校教育施設整備を進める。</p>				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>栗原市総合計画に基づき、若柳中学校校舎改築工事、築館中学校プール改築工事、及び鶯沢小学校体育館大規模改修工事等を実施した。また学校再編に伴い、岩ヶ崎小学校増築工事、若柳小学校施設整備（大規模改造）工事、一迫小学校改修工事、金成小中学校校舎等建設工事、若柳幼稚園増築工事、栗駒南小学校施設整備工事を実施した。</p>				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。			
	C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
平成25年度以降も引き続き老朽学校教育施設の長寿命化、安全確保を図っていく必要がある。		 <p>栗原市総合計画に位置付け、文部科学省所管交付金等の制度を活用しながら、計画的に改築事業及び大規模改修事業を実施していく。</p>		
5 学識経験者の意見				
学校の建物は地域の防災施設でもあり、老朽化した建物の改築・改修は重要である。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	学力の向上を図る学習指導の工夫改善		担当課 学校教育課
1 目的				
<p>栗原市内の小・中学校の学力レベルは、全国学力・学習状況調査から見ても、全国平均及び宮城県平均を下回っている状況であることから、学力向上に向けた取組みが喫緊の課題となっている。そのため、市内小・中学校の児童生徒の学力向上を目的に、有識者による学力向上に関する取組みの検証及び対策の検討、さらには直接児童生徒を支援するための事業を推進する。</p>				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
8「確かな学力・輝きプラン」				
事業概要				
<p>児童生徒の学力を向上させるために、各校で取り組む研修等への支援を行う。また、学力状況や家庭での学習の様子分析結果に基づき、学校と家庭が連携して児童生徒に学習意欲と学習習慣を身に付けさせるための対策を「確かな学力・輝きプラン」のパンフレットにまとめ、保護者に配付して啓発する。</p>				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>学力向上指定校を設置し、児童生徒の学力向上に努めた。輝きプラン推進委員会を年3回開催し、全国学力・学習状況調査や学校生活アンケートなどの結果を分析して、栗原市の児童生徒の姿を浮かび上がらせ、「早寝・早起き・朝ごはん」と学力向上を関連させた「確かな学力・輝きプラン」のパンフレットをすべての児童生徒の家庭に配付し、啓発した。</p>				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。			
	C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
<p>全国学力・学習状況調査や学校生活アンケートについては、小学校6年と中学校3年という特定の学年しか実施していないため、全ての児童生徒の学力の把握が必要である。</p>		➡	<p>小・中学校のすべての学年で調査を実施することにより、栗原市全体の学力の傾向と、児童生徒一人一人の特性を把握することができ、具体的な学力向上対策を検討することができる。</p>	
5 学識経験者の意見				
<p>調査は、「児童生徒の学力を向上させようとする教員の栗原市を挙げた組織的な授業改善の活動」に反映させなければならない。栗原市学校再編計画は、教員間の交流による授業力向上も企図すべきものであると考える。</p>				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	学力の向上を図る学習指導の工夫改善		担当課 学校教育課

1 目的

栗原市内の小・中学校の学力レベルは、全国学力・学習状況調査から見ても、全国平均及び宮城県平均を下回っている状況であることから、学力向上に向けた取り組みが喫緊の課題となっている。そのため、市内小・中学校の児童生徒の学力向上を目的に、有識者による学力向上に関する取り組みの検証及び対策の検討、さらには直接児童生徒を支援するための事業を推進する。

2 具体的事業

施策を構成する事業

9「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」

事業概要

家庭との連携による自主的学習の習慣化と家庭学習や読書の定着を図るため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象とした長期休業中の「学府くりはら塾」を実施する。また、「学び支援コーディネーター等配置事業」として、小学生を対象に「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施する。

3 平成24年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

「学府くりはら塾」及び「学び支援コーディネーター等配置事業」の事業は、次の通りである。

事業名	学府くりはら塾	夏休み学習会	放課後学習会	週末学習会	学府くりはら塾	冬休み学習会
実施期間	8/16～20	8/21～24	9月～10月	11月～3月	12/24～26	12/27～28
場所	築館中学校	金成庁舎	築館小、一迫小	金成庁舎	金成庁舎	金成庁舎
対象者	中学1～3年	小学3～6年	小学3～6年	小学3～6年	中学3年	小学3～6年
参加者	161人	209人	736人	555人	59人	273人
支援者	70人	64人	62人	56人	38人	48人

参加した児童生徒のアンケート結果を分析すると、学習習慣が身に付き、学習意欲が高まったということが分かった。

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

会場が限定されたため、参加したくても参加できなかった児童生徒も多かった。



放課後学習会の時期や会場を検討し、より多くの児童生徒が参加できる体制を確立していく。併せて、各校独自の放課後学習会も推奨・支援していく。

5 学識経験者の意見

活動の発展のためには、ボランティアにとってのメリットをわかりやすく示す必要がある。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	特別支援教育の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため、特別支援学校等関係機関との連携を深める。また、個別の指導計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
10「特別支援連絡協議会」				
事業概要				
特別支援教育を推進するため支援学校等関係機関との連携強化のため、年3回の会議を開催し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、県や市の関係機関等、それぞれの立場から、特別に支援を要する児童生徒の自立や社会参加をめざし協議を行う。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
関係機関との情報交換を行い、児童生徒一人ひとりの自立と社会参加に向けた支援の在り方を協議した。				
	会議	期日	内容	
特別支援連携協議会	第1回会議	5月28日(月)	委嘱状交付、H24年度の取り組みについて	
	第2回会議	10月9日(火)	第2回コーディネーター連絡協議会について	
	第3回会議	1月21日(月)	平成25年度の活動案について	
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
通常学級において特別に配慮すべき児童生徒が多くなってきている。		➡	より多くの目で支援していく必要があることから、学校活性化プラン事業により、補助員を配置していく。	
5 学識経験者の意見				
通常学級における特別に配慮すべき児童生徒の継続的なケアを担保するために、適切な管理を前提として、中学校区を単位とするなど、異校種間での個人情報の共有が必要である。「特別支援連絡協議会」がこのような情報の流通の場として機能することが望ましい。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	特別支援教育の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざす特別支援教育を推進するため、特別支援学校等関係機関との連携を深める。また、個別の指導計画を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
11「特別支援教育コーディネーター会議」				
事業概要				
特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の構築を図るため、年2回の会議を開催し、特別に支援を要する児童生徒への対応や個別支援計画の作成、各校の取組状況等の情報交換などを行う。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
就学相談や就学指導に係る研修や個別支援計画作成のための研修を行い、特別支援教育推進の充実を図った。コーディネーターとしての役割意識を高めることができた。				
		会議	期日	内容
特別支援教育コーディネーター連絡協議会		第1回会議	6月25日(月)	WISC-Ⅲ等の実施法と読み取り
		第2回会議	12月10日(月)	講話「発達障害の理解」等
※WISC-Ⅲ…知能検査				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
校内での実務についても、具体的に支援していく必要がある。		➡	個別支援計画の作成や就学指導の進め方などの研修を充実させていく。	
5 学識経験者の意見				
特別支援コーディネーターの学校における位置は今後益々重要になることが予想され、校種を超えた学校間での情報交換が必要である。判断に迷う場合も多く、医師等の恒常的な支援が望ましい。				


施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	家庭や地域社会に開かれた信頼される学校づくりの推進		担当課 学校教育課
1 目的				
保護者や地域に教育方針や教育目標等について明確に説明し、教育活動を積極的に公開するとともに、学校運営や教育活動等について学校評価を行い、結果を公表することで、開かれた学校を目指す。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
12「学校評価の実施」「学校評議員制度の活用」「学校公開事業」				
事業概要				
<p>地域に開かれた学校づくりを推進するため、学校評議員制度（注1）を活用し、評議員から学校運営に対して意見をいただくとともに、各学校で実施した学校評価の結果を公表し、次年度の学校運営に反映させる。また、授業参観や学校行事等で児童生徒の学びの様子を公開する。</p> <p>（注1）学校評議員制度・・・地域に開かれた学校づくりを推進していくため、学校運営について保護者や地域住民等の意見を幅広く聞くための制度。</p>				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>すべての学校において、学校評議員会及び学校評価を実施し、学校経営に関し、保護者や地域の有識者等からの意見・感想を生かして、学校経営に当たることができた。学校評価の結果は、学校のホームページやお便り等で公表した。</p> <p>また、学習参観、フリー参観（注2）、運動会、学芸会・文化祭等の各行事において、保護者や地域に学校の取組みの様子や児童生徒の学びの様子を公開した。</p> <p>（注2）フリー参観・・・開かれた学校づくりの一環として、登校時から下校時まで間に、保護者や地域の方に子どもたちの学校での生活や学習の様子を参観してもらうこと。</p>				
評価				
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
学校公開の手法をさらに工夫・改善していく必要がある。		➡	学校公開について、保護者や地域の意見を踏まえて設定していくよう各校に提案していく。また、アンケート等も工夫して、より多くの意見を把握するよう求める。	
5 学識経験者の意見				
学校評価や学校評議員はどの学校でも制度化されている。学校に興味を持っていただいた評議員を中心に、学校支援地域本部のような仕組みをつくることも考えられる。				


施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)						
	具体的施策	社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進		担当課 学校教育課						
1 目的										
夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む志教育の推進に努める。										
2 具体的事業										
施策を構成する事業										
13「志教育支援事業」										
事業概要										
<p>社会の中で自分が果たすべき役割は何か、さらに、自分の夢や目標の実現のためにどのような取り組みが必要かなどについて、より深く考えさせる志教育の充実と推進を図る。</p> <p>「志教育支援事業」県の指定を受け、若柳中学校区における次の6つの取り組みについて支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 推進地区連絡協議会の設置及び運営 (2) 家庭及び地域、小・中学校、高等学校との連携した事業の検討と実施 (3) 参考指導事例集を基にした各教科における授業の実践 (4) 講演会等の実施 (5) 事例発表会の実施 (6) 事例報告書の作成 										
3 平成24年度の取り組みと自己評価										
取り組みと成果										
<p>若柳中学校区が県の「志教育支援事業」の指定を受け、2年間にわたり事業の推進を支援した。12月の「小中高交流発表会」を開催したところ、県内全域から200人に上る教員が参加し盛会裏に実施することができた。小中高と家庭、地域が連携して子どもの職業観を育む取り組みが認められ、文部科学大臣からキャリア教育優良教育委員会として表彰された。</p>										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">期 日</th> <th style="width: 50%;">会議・発表会</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月25日(金)～1月25日(金)</td> <td>第1回～12回連絡協議会</td> </tr> <tr> <td>12月14日(金)</td> <td>小中高交流発表会</td> </tr> </tbody> </table>					期 日	会議・発表会	5月25日(金)～1月25日(金)	第1回～12回連絡協議会	12月14日(金)	小中高交流発表会
期 日	会議・発表会									
5月25日(金)～1月25日(金)	第1回～12回連絡協議会									
12月14日(金)	小中高交流発表会									
評 価										
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>									
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針										
<p>県が示す今後の志教育の在り方の視点「連携、継続、連続」で、支援を継続していく。</p>		➡	<p>若柳地区に対しての継続した指導。若柳地区の成果を市内全体へ啓発。今年度、県指定を受けた築館地区での指導。</p>							
5 学識経験者の意見										
若柳地区で挙げた実績を栗原市全体で共有する活動が計画され、更なる発展が期待される。										


施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)																
	具体的施策	社会の変化に伴う今日的な課題に対応する教育の推進		担当課 学校教育課																
1 目的																				
<p>J E Tプログラムにより招致したA L T (注1) を市内全中学校へ配置し、英語教育を行うとともに、小学校低学年から英語に親しませるため、ノンJ E T (注2) の外国人指導助手を配置し、外国の文化や伝統に対する理解とコミュニケーション能力の素地を養う外国語活動の充実を図る。</p> <p>(注1) A L T・・・国が行っている語学指導等を行う外国青年招致事業 (注2) ノンJ E T・・・国が行っているJETプログラム事業以外の事業で、ここでは民間への業務委託を指す。</p>																				
2 具体的事業																				
施策を構成する事業																				
14「国際田園都市づくり英語教育導入事業」																				
事業概要																				
<p>小学校の低学年から英語に慣れ親しませるため、ノンJ E Tの外国語指導助手5人と中学校に配置している5人のA L Tを活用し、小学校外国語活動の充実を図る。また、小学校外国語活動に関する研修会の開催や宮城教育大学の留学生との交流事業を実施する。</p>																				
3 平成24年度の取り組みと自己評価																				
取り組みと成果																				
<p>市内全小学校の3・4年生は年間15時間程度、5・6年生については年間35時間の英語活動を実施した。夏季休業中に、小学校3年生以上を対象に日常生活を英語だけで過ごす「英語でチャレンジ」を行った。また、留学生との交流事業は、築館地区4小学校で実施した。</p>																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>会場</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語でチャレンジ</td> <td>8月2日(木)～3日(金)</td> <td>この花さくや姫プラザ</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td>国際交流事業</td> <td>11月28日(水)</td> <td>築館・玉沢小学校</td> <td>135人</td> </tr> <tr> <td>国際交流事業</td> <td>12月12日(水)</td> <td>宮野・富野小学校</td> <td>79人</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	会場	参加人数	英語でチャレンジ	8月2日(木)～3日(金)	この花さくや姫プラザ	42人	国際交流事業	11月28日(水)	築館・玉沢小学校	135人	国際交流事業	12月12日(水)	宮野・富野小学校	79人
事業名	期日	会場	参加人数																	
英語でチャレンジ	8月2日(木)～3日(金)	この花さくや姫プラザ	42人																	
国際交流事業	11月28日(水)	築館・玉沢小学校	135人																	
国際交流事業	12月12日(水)	宮野・富野小学校	79人																	
評価																				
<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">B</td> <td>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</td> </tr> <tr> <td>B 概ね計画どおり目標が達成された。</td> </tr> <tr> <td>C 課題があり、改善を要する。</td> </tr> </table>					B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。	B 概ね計画どおり目標が達成された。	C 課題があり、改善を要する。												
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。																			
	C 課題があり、改善を要する。																			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																				
<p>「英語でチャレンジ」の申込者が多く増えてきており、市民の要望にこたえられなくなってきている。 ➡ 市民の要望に応えるため、会場の選定及び指導者の増員等を検討していく。</p>																				
5 学識経験者の意見																				
<p>国際化が課題の日本にとって、意義ある活動である。「青空大使派遣事業」と関連させ、体系化していくこともあり得る。</p>																				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
基礎的・基本的な学習内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の改善及び研修、また、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
15「学力向上支援事業及び校内研修」				
事業概要				
<p>自校の教育課題の解決や実践的指導力を高める校内研究の推進を図るため、マンパワー活用事業(注1)や学力向上サポートプログラム事業とも関連させながら、校内研修の充実を図る。</p> <p>(注1) マンパワー活用事業・・・県の学力向上事業の一つであり、研究指定校教員や研修経験者など(学力向上成果普及教員)を要請のあった学校や教育委員会等に派遣し、学力向上の取組みを支援する。</p>				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>県が実施している学力向上サポートプログラム3校と市内小中学校の希望校12校の合わせて15校で学力向上支援を実施した。学力向上支援校のうち、マンパワー活用事業で1回以上の授業研究を行った割合は67%。また、模擬授業等による校内研究会の開催は100%であり、マンパワーの積極的な活用が図られた。</p>				
評価				
B		<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>		
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
<p>栗原市の課題を解決する研究や、小・中学校教職員の研修の場が必要となってきたり。</p>		➡	<p>教育研究センターを設置し、栗原市の課題等について検討していく。</p>	
5 学識経験者の意見				
<p>マンパワー活用事業等は、栗原市教員の主体的で能動的な活動があつてこそ活きる。教育研究センターが栗原市教員のかかる活動を触発することを大いに期待する。</p>				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	確かな学力を育成する (小・中学校教育)
	具体的施策	教職員の資質・能力と指導力を高めるための研修の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
基礎的・基本的な学習内容の定着や自ら学び自ら考える力を育てる指導方法の改善及び研修、また、教育公務員としての使命と職責への自覚を促すための研修の充実を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
16「学力向上講演会」				
事業概要				
児童生徒の学力向上を図る事業の一環として、教職員の資質と能力を高めるため「学府くりはら」学力向上講演会を実施する。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
学力向上講演会を開催した。参加した教職員からは、被災地の現状を知ることができ、有意義な講演であったと好評であった。				
開催日時 平成24年10月10日(水)午後2時 会場 栗原市若柳総合文化センター 講師 宮城教育大学特任教授、阿部芳吉先生 講演内容 「被災地の子どもたちから学ぶ」 参加人数 栗原市内幼・小・中学校教職員約400人				
評価				
B		A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。		
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
講演会の内容についての、評価を実施することが必要である。		➡	今後、アンケート等を実施し、より良い講演会を実施できるようにする。	
5 学識経験者の意見				
講演会は栗原市教員の積極的且つ組織的な授業改善の活動・・・公開研究会の開催のような・・・と相俟って効果を発揮する。前項同様、教育研究センターに大いに期待する。				

施策体系	基本針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む																								
	具体的施策	道徳教育の充実と推進			担当課 学校教育課																							
1 目的																												
<p>志教育（注1）を充実させ、一人ひとりに夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度を育成する。また、学校不適応児童生徒個々の状態に応じた指導を行うことにより、学習意欲、自立心、社会性等を育て、学校生活への復帰を促す。</p> <p>（注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育</p>																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業																												
17「教育相談員」「スクールカウンセラーの配置」「適応指導教室事業」																												
事業概要																												
<p>学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人及びスクールカウンセラー2人を配置して、各校からの要望に対し、いつでも相談支援ができる体制整備ようにする。また、適応指導教室（けやき教室）を設置して、学校不適応傾向の児童生徒への学習の場を保障すると同時に、学校登校に向けての支援を行う。</p>																												
3 平成24年度の取り組みと自己評価																												
取り組みと成果																												
<p>教育相談員や在学青少年指導員の活動をとおして各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握し、適切な支援体制の助言に努めることができた。また、けやき教室へは、4中学校から5人の生徒が通級し、在学青少年指導員が指導にあたった。</p>																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応日時及び時間</th> <th colspan="4">対応状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育相談</td> <td>毎週月、木、金、8:30~17:15</td> <td colspan="4">来庁相談：4件、電話相談：14件、学校訪問：46件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">けやき教室</td> <td rowspan="2">毎週火~金、9:00~15:30</td> <td>開所日数</td> <td>中学1年生</td> <td>中学2年生</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>163日</td> <td>1人</td> <td>4人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>								対応日時及び時間	対応状況				教育相談	毎週月、木、金、8:30~17:15	来庁相談：4件、電話相談：14件、学校訪問：46件				けやき教室	毎週火~金、9:00~15:30	開所日数	中学1年生	中学2年生	合計	163日	1人	4人	5人
	対応日時及び時間	対応状況																										
教育相談	毎週月、木、金、8:30~17:15	来庁相談：4件、電話相談：14件、学校訪問：46件																										
けやき教室	毎週火~金、9:00~15:30	開所日数	中学1年生	中学2年生	合計																							
		163日	1人	4人	5人																							
評価																												
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>																											
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																												
なし 																												
5 学識経験者の意見																												
クライアントに対して適切な支援体制が組んでいると考える。																												

施策体系	基本針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	豊かな心を育む									
	具体的施策	道徳教育の充実と推進		担当課 学校教育課									
1 目的													
<p>志教育（注1）を充実させ、一人ひとりに夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度を育成する。また、学校不適応児童生徒個々の状態に応じた指導を行うことにより、学習意欲、自立心、社会性等を育て、学校生活への復帰を促す。</p> <p>（注1）志教育…夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む教育</p>													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
18「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」													
事業概要													
<p>不登校、いじめ等、学校不適応児童生徒への適切な対応を行うため「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の相談員を派遣して、別室での学習支援を行う。また、不登校傾向の児童生徒や家庭に対して、スクールソーシャルワーカーを派遣して、学校・家庭・児童生徒・関係機関が連携して、問題解決に向けて、その方向性を探っていく。</p>													
3 平成24年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
<p>「問題を抱える子ども等の自立支援事業」については、3校5人への児童生徒にかかわり、1人が教室に戻ることができた。次年度も継続して相談員を派遣してほしいという要望があった。スクールソーシャルワーカーは、5校5家庭の支援を行った。家庭とかかわる際は、学校担任と連携して、民生委員や子育て支援課など、多くの機関と連携しながら対応した。</p>													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>活用状況</th> <th>対象校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>問題を抱える子ども等の自立支援事業</td> <td>3校5人</td> <td>若柳中、高清水中、瀬峰中</td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー活用事業</td> <td>5校5家庭</td> <td>高清水小、若柳中、志波姫中、栗駒中、瀬峰中</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	活用状況	対象校	問題を抱える子ども等の自立支援事業	3校5人	若柳中、高清水中、瀬峰中	スクールソーシャルワーカー活用事業	5校5家庭	高清水小、若柳中、志波姫中、栗駒中、瀬峰中
事業名	活用状況	対象校											
問題を抱える子ども等の自立支援事業	3校5人	若柳中、高清水中、瀬峰中											
スクールソーシャルワーカー活用事業	5校5家庭	高清水小、若柳中、志波姫中、栗駒中、瀬峰中											
評価													
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>												
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針													
なし 													
5 学識経験者の意見													
<p>多様な子どもの問題を教師だけでは抱えきれず、専門家の学校支援が必要であり、意義或る事業である。</p>													

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る
	具体的施策	健やかな体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課
1 目的				
<p>社会環境の変化に伴い子どもたちを取り巻く生活環境も変化する中で、子どもたちの体力や健康に関する問題が深刻化している。こうしたことから、子どもの発達段階に応じた食に関する正しい知識や望ましい生活習慣を身につけるための指導、食育の生きた教材となる学校給食の充実、また、体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進等により、将来にわたって健康で活力ある生活を送ることができる児童生徒の育成を目指す。</p>				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
19「学校訪問指導事業」				
事業概要				
<p>学校給食及び施設設備の充実・強化を図り、健やかな体を培うため、学校栄養士や地域の人材と連携した食育の推進、栄養指導及び地産地消の推進を行う。また、基本的な生活習慣の形成を図るため、「早寝、早起き、朝ごはん」運動を奨励する。</p>				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>学校給食センターの栄養士等が市内の小・中学校を訪問し、各学年の発達段階に応じたテーマを設けて、食に関する指導等を行った。また、家庭に向けて「早寝、早起き、朝ごはん」のリーフレットを配付し、生きていくうえで基本となる食事や生活習慣の大切さを促した。</p> <p>栄養士等による栄養指導の主なテーマ</p> <p>(小学校) ・好き嫌いをしないで食べよう ・野菜の働きについて ・バランスのとれた食事について</p> <p>(中学校) ・夏の栄養大作戦 ・受験期の食事について</p>				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。			
	C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
<p>食の指導だけでなく、体力向上に向けた更なる取り組みが必要である。  体力向上策の検討をする。</p>				
5 学識経験者の意見				
食の大切さを児童・生徒に認識させる意義ある事業である。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る
	具体的施策	健やかな体を培う体育・健康教育の充実		担当課 学校教育課

1 目的

社会環境の変化に伴い子どもたちを取り巻く生活環境も変化する中で、子どもたちの体力や健康に関する問題が深刻化している。こうしたことから、子どもの発達段階に応じた食に関する正しい知識や望ましい生活習慣を身につけるための指導、食育の生きた教材となる学校給食の充実、また、体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進等により、将来にわたって健康で活力ある生活を送ることができる児童生徒の育成を目指す。

2 具体的事業

施策を構成する事業

20「夏季休業中プール開放事業」

事業概要

体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進を図るため、夏季休業中の子どもたちの健康と体力の増進のため、小学校及び中学校のプールを開放する。

3 平成24年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

プール監視員等を任用し、夏季休業中プール開放を行い、基礎的体力の向上、水泳の奨励につながった。

	監視員	監視補助員	実施校数
小学校	13 人	76 人	27校全校
中学校	4 人	18 人	9校中7校（改修工事等のため、高清水中、金成中実施せず）

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

プール監視員・監視補助員は、夏季休業期間中の短期間の任用となるため、人員確保が難しい。
そのため、プール開放ができない日がある。




各小・中学校に、年度当初から監視員及び補助員の人員を確保するように指導する。

5 学識経験者の意見

大学生の夏休み期間が小・中学校のそれと2週間程度のズレがあり、プール監視員・監視補助員確保はどこでも難しい。PTA（保護者と教員）が主体的に実施するか、できる範囲でよしとするか、判断すべきところである。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校	基本目標	心身の健康と体力の向上を図る																					
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育の推進		担当課 学校教育課																					
1 目的																									
危険を予知し回避する能力を高めるための防災教育を推進するとともに、防災の基礎となる基本的な知識に関する指導を充実させる。																									
2 具体的事業																									
施策を構成する事業																									
21「防災マニュアルの作成」																									
事業概要																									
児童生徒の安全確保を図る危機管理体制の確立と関係機関との強化のため、すべての小学校・中学校で防災マニュアルを作成し、それに基づいて児童生徒の安全確保を図る危機管理体制を確立する。同時に、関係機関と連携して、自らの命を守るための防災教育を充実する。																									
3 平成24年度の取り組みと自己評価																									
取り組みと成果																									
防災マニュアルの作成結果は、次のとおりである。																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県及び市の教育委員会のガイドや手引を参考にして、各学校の状況に合わせて作成した学校</td> <td>27 校</td> <td>9 校</td> </tr> <tr> <td>避難所になったときの教職員体制や具体的業務内容等が整備されている学校</td> <td>23 校</td> <td>7 校</td> </tr> <tr> <td>学校防災に関しての学校の全体計画が整備されている学校</td> <td>24 校</td> <td>8 校</td> </tr> <tr> <td>学校防災に関して、月ごと、学年ごとの指導計画が整備されている学校</td> <td>22 校</td> <td>8 校</td> </tr> <tr> <td>P T A や地域・行政のいずれかが関わった避難訓練を計画している学校</td> <td>13 校</td> <td>1 校</td> </tr> <tr> <td>学校評議員や行政区長、消防署等と連携して安全（防災）計画を策定した学校</td> <td>7 校</td> <td>3 校</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	小学校	中学校	県及び市の教育委員会のガイドや手引を参考にして、各学校の状況に合わせて作成した学校	27 校	9 校	避難所になったときの教職員体制や具体的業務内容等が整備されている学校	23 校	7 校	学校防災に関しての学校の全体計画が整備されている学校	24 校	8 校	学校防災に関して、月ごと、学年ごとの指導計画が整備されている学校	22 校	8 校	P T A や地域・行政のいずれかが関わった避難訓練を計画している学校	13 校	1 校	学校評議員や行政区長、消防署等と連携して安全（防災）計画を策定した学校	7 校	3 校		
項 目	小学校	中学校																							
県及び市の教育委員会のガイドや手引を参考にして、各学校の状況に合わせて作成した学校	27 校	9 校																							
避難所になったときの教職員体制や具体的業務内容等が整備されている学校	23 校	7 校																							
学校防災に関しての学校の全体計画が整備されている学校	24 校	8 校																							
学校防災に関して、月ごと、学年ごとの指導計画が整備されている学校	22 校	8 校																							
P T A や地域・行政のいずれかが関わった避難訓練を計画している学校	13 校	1 校																							
学校評議員や行政区長、消防署等と連携して安全（防災）計画を策定した学校	7 校	3 校																							
<参考> 市内学校数・・・小学校（27校）、中学校（9校）																									
評 価																									
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																								
	B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																								
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																									
避難所マニュアルなどを、すべての学校で作成する必要がある。		➡	すべての小・中学校でマニュアルを作成するとともに、地域と連携した避難訓練を実施していく。																						
5 学識経験者の意見																									
防災マニュアルが全小・中学校で作成されている。今後、避難訓練を踏まえて改善していくことが重要である。																									

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興												
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (1) 幼児期(芽生え期)		担当課 社会教育課												
1 目的																
幼児期の子どもが主体的に生き、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。																
2 具体的事業																
施策を構成する事業																
22「家庭教育学級」																
事業概要																
<p>幼児、児童の保護者を対象とした学習機会を提供するため、市内幼稚園、小学校において行う家庭教育学級の講師謝礼の助成を行う。</p> <p>家庭教育学級講師リストを作成提供し、開催にあたって指導助言を行い、内容の充実を図る。</p>																
3 平成24年度の取り組みと自己評価																
取り組みと成果																
<p>幼稚園児、小学生の保護者を対象とした家庭教育学級を開催し、開催回数、参加者ともに前年度を上回った。</p> <p>家庭教育学級開催実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>21 回</td> <td>24 回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>1,655 人</td> <td>1,914 人</td> </tr> <tr> <td>助成金額</td> <td>195,000 円</td> <td>230,000 円</td> </tr> </tbody> </table>						平成23年度	平成24年度	開催回数	21 回	24 回	参加者数	1,655 人	1,914 人	助成金額	195,000 円	230,000 円
	平成23年度	平成24年度														
開催回数	21 回	24 回														
参加者数	1,655 人	1,914 人														
助成金額	195,000 円	230,000 円														
評価																
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>															
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																
<p>保育所に入所する児童の保護者からも、家庭教育学級開催経費の助成についての要望がある。</p>		➡	<p>関係機関と協議し、講師謝礼の助成対象範囲を保育所での開催にも拡大する。</p>													
5 学識経験者の意見																
子育て期にある保護者を対象にした援助・教育的機会として効果を上げていると思われる。																

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興									
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (1) 幼児期（芽生え期）		担当課 社会教育課									
1 目的													
幼児期の子どもが主体的に生き、社会に適応するための基本的資質や能力を形成するうえで必要な教育が得られる場づくりを図る。また、保護者が家庭教育について「学び、考える」機会の拡大に努め、それを支援する人材の育成を図っていく。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
23「サポーター養成」「ブックスタート事業」													
事業概要													
関係機関と連携した子育て支援の推進を図るため、講座や研修会を行い、子育て支援人材の養成を行う。 乳幼児健診時に、乳幼児に本を送り、本を通した親子のふれあいや読書の大切さを伝える。													
3 平成24年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
市民17人が支援人材養成講座を修了し、支援の人数が増えた。 「家庭教育サポーターネットワーク研修会」を開催し、関係機関からの情報提供の機会を持った。 乳幼児健診時に図書館が読み聞かせ団体を活用してブックスタート事業を行った。 子育て中の親に対し図書館のPRと読み聞かせ団体の紹介ができ、親子での図書館利用促進につながった。													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>35 回</td> <td>24 回</td> </tr> <tr> <td>配付数</td> <td>470 人</td> <td>438 人</td> </tr> </tbody> </table>						平成23年度	平成24年度	開催回数	35 回	24 回	配付数	470 人	438 人
	平成23年度	平成24年度											
開催回数	35 回	24 回											
配付数	470 人	438 人											
評価													
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。												
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針													
養成したサポーターの活動機会が広がらなかった。  新たな活動内容、活動場所を検討する。													
5 学識経験者の意見													
養成した家庭教育サポーターの有効な活用を図る必要がある。													

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																																								
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (2) 青少年期 (成長期)		担当課 社会教育課																																								
1 目的																																												
<p>青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。</p>																																												
2 具体的事業																																												
施策を構成する事業																																												
24「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」																																												
事業概要																																												
<p>地域少年団体の育成と活動の支援を図るため、ジュニア・リーダーを育成し、少年体験活動の支援を図る。また、地域で開催されるお祭り、子ども会活動へ青少年の参画を積極的に促し、社会貢献の場を提供する。</p>																																												
3 平成24年度の取り組みと自己評価																																												
取り組みと成果																																												
<p>ジュニア・リーダーを募集・育成し、子ども会活動等への支援などを行った。 指導者としての学習を行うことにより、次世代を担うリーダーとして資質向上が図られた。</p> <p>ジュニア・リーダー登録地区、人数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>増減</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地区</td> <td>7 地区</td> <td>7 地区</td> <td>0</td> <td>全10地区</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>62 人</td> <td>58 人</td> <td>△ 4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日・期間</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>担当部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JL初級研修会/新人研修会</td> <td>10/7(日)～10/8(月)</td> <td>中学1年～高校3年JL</td> <td>18人</td> <td>社会教育課</td> </tr> <tr> <td>JL初級研修会/新人研修会技術研修・交流会</td> <td>3/17(日)</td> <td>市内JL</td> <td>17人</td> <td>社会教育課</td> </tr> <tr> <td>築館JL人形劇祭り</td> <td>12/23(日)</td> <td>築館・志波姫地区市民</td> <td>90人</td> <td>築館・志波姫教育センター</td> </tr> <tr> <td>JL派遣事業</td> <td>合計 6 回</td> <td>栗駒・鶯沢・金成地区</td> <td>210人</td> <td>栗駒・鶯沢教育センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>※JL=ジュニア・リーダー</p>						平成23年度	平成24年度	増減	備考	地区	7 地区	7 地区	0	全10地区	人数	62 人	58 人	△ 4		事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署	JL初級研修会/新人研修会	10/7(日)～10/8(月)	中学1年～高校3年JL	18人	社会教育課	JL初級研修会/新人研修会技術研修・交流会	3/17(日)	市内JL	17人	社会教育課	築館JL人形劇祭り	12/23(日)	築館・志波姫地区市民	90人	築館・志波姫教育センター	JL派遣事業	合計 6 回	栗駒・鶯沢・金成地区	210人	栗駒・鶯沢教育センター
	平成23年度	平成24年度	増減	備考																																								
地区	7 地区	7 地区	0	全10地区																																								
人数	62 人	58 人	△ 4																																									
事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署																																								
JL初級研修会/新人研修会	10/7(日)～10/8(月)	中学1年～高校3年JL	18人	社会教育課																																								
JL初級研修会/新人研修会技術研修・交流会	3/17(日)	市内JL	17人	社会教育課																																								
築館JL人形劇祭り	12/23(日)	築館・志波姫地区市民	90人	築館・志波姫教育センター																																								
JL派遣事業	合計 6 回	栗駒・鶯沢・金成地区	210人	栗駒・鶯沢教育センター																																								
評価																																												
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。</p>																																											
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																																												
ジュニア・リーダー・サークルの活動地区が限られている。		➡	活動エリアを再構築し、市内全地区に活動の場を広げる。																																									
5 学識経験者の意見																																												
ジュニア・リーダーらが自ら主体的に事業構想できる余地が欲しい。																																												

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (2) 青少年期 (成長期)		担当課 社会教育課

1 目的
 青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業
 施策を構成する事業
25 「少年体験教室・青少年育成団体との連携・育成者の支援」

事業概要
 青少年教育の推進を図るため、教育センター、図書館、文化施設において青少年対象の事業を実施する。

3 平成24年度の取り組みと自己評価
 取り組みと成果

各教育センター、各施設で青少年対象事業を開催した。
 各種事業を開催することにより、青少年の成長過程での情操教育の一端となった。

教育センター、図書館、文化施設における青少年対象の事業（※主な事業を抜粋）

事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署
あきる野市・栗原市友好親善交流事業	7/25 (水) ~ 27 (金)	栗原西中・志波姫中・若柳中	150人	社会教育課
青空大使派遣事業	7/29 (日) ~ 8/3 (金)	市内中学2年生20人	20人	社会教育課
少年体験教室事業	6月~12月 (4回)	築館・志波姫地区小学生	53人	築館・志波姫教育センター
わかやなぎ子どもJOINT FES	1/20 (日)	若柳地区市民	300人	若柳・金成教育センター
ショク「職」の達人	7/27, 30, 31, 8/2	市内小学生	9人	栗駒・鶯沢教育センター
せみね合宿通学 (3泊4日)	11/6 (火) ~ 11/9 (金)	瀬峰小学校4~6年	23人	瀬峰・高清水教育センター
小・中学生新春書初め	1/5 (土)	一迫・花山地区小・中学生	45人	一迫・花山教育センター

評価

B

A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
 B 概ね計画どおり目標が達成された。
 C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

継続事業が多く、新規事業が少ない。  市民ニーズを的確に把握すべくアンケート調査等を実施する。

5 学識経験者の意見
 継続事業において、事業実施の効果を（参加者自身も）確認できるような指標が必要と思われる。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供 (3) 成年期(成熟期)		担当課 社会教育課

1 目的
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。また、習得した知識や経験、学習成果を次世代へ還元する機会の提供を図る。

2 具体的事業
施策を構成する事業

26 「講演会・シニアセミナー・レディースカレッジ」

事業概要
地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場の提供を図る。また、高齢者の豊かな知識と経験などを地域社会の活動に活かし、生きがいのある生活の創造を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。

3 平成24年度の取り組みと自己評価
取り組みと成果

ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センター、各施設ごとに実施。各種事業を実施することにより、生涯各期に要請された学習機会について提供した。

家庭教育	協働教育	青少年教育	成人教育	高齢者教育	女性教育	視聴覚教育
24事業	6事業	51事業	24事業	19事業	11事業	8事業

事業名	期日・期間	対象	参加人数	担当部署
図書館まつり	10/13(金)	市民一般	833人	図書館
健康リズム体操教室(全5回)	10/10~11/7	市内成人女性	66人	栗駒・鶯沢教育センター
高齢者講座「シニアセミナー」	5月~12月	築館・志波姫地区市民(60歳以上)	260人	築館・志波姫教育センター
高齢者学習会(地区開催)	7/19(木)~3/8(金)	一迫・花山地区市民(60歳以上)	390人	一迫・花山教育センター
女性講座「レディースカレッジ」(全4回)	6月~11月	築館・志波姫地区市民(成人女性)	57人	築館・志波姫教育センター
女性教室(全7回)	6/28(木)~3/8(金)	市内の女性	173人	若柳・金成教育センター
自作視聴覚教材コンクール	2/15(金)	一般	17人	視聴覚センター

評価
B
A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
B 概ね計画どおり目標が達成された。
C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針
ライフステージに合わせた事業を実施しているが、分野ごとの実施状況に偏りがあった。 → 住民ニーズを把握しながら、ライフステージごとの事業計画の見直しを図る。

5 学識経験者の意見
各世代ごとの学習機会の提供に加えて、世代同士の交流を含めた相互学習の機会も設けてはどうか。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援		担当課 社会教育課

1 目的
市民がいつでも、どこでも、だれでも生涯学習が展開できるように社会教育施設及び社会教育環境を整備し、活動の充実を図っていく。また地域課題解決に向けた学習に取り組み、活動の自立化を促す。地域活動に参画する地域のリーダーの育成を図るため、各種社会教育事業を展開するとともに、地区コミュニティ組織等との連携を図る。

2 具体的事業
施策を構成する事業
27「学習まつり・芸能祭・文化祭」

事業概要
社会教育関係団体等との連携により市民のニーズに合った講座等を開催するとともに、市民に対して事業の情報提供を行う。

3 平成24年度の取り組みと自己評価
取り組みと成果

社会教育団体が主催する事業と共催開催し、市民団体が主となり自主運営が図れるよう、活動支援に努めた。

主催・共催者	事業名	期日・期間	対象	参加人数
志波姫地区芸術文化協会	栗原市民文化祭inしわひめ	11/2(金)～3(土)	志波姫地区市民	300人
築館文化芸術協会	築館地区文化芸術祭	11/17(土)～18(日)	築館地区市民	950人
若柳芸術協会	若柳初夏の展示会	6/9(土)～6/10(日)	一般市民	320人
金成芸術協会 市民会議金成支部	小学生絵画・書道作品展 保育所児・園児たちの作品展	10/13(土)～10/14(日)	金成地区小生 保育所児・幼稚園児	815人
若柳芸術協会	若柳文化祭・芸術祭	11/3(土)～11/4(日) 12/2(日)	一般市民	1,000人
瀬峰文化協会	瀬峰文化祭	11/3(土)～11/4(日)	瀬峰地区市民	600人
高清水生涯学習まつり実行委員会	高清水生涯学習まつり・芸能祭	11/3(土)～11/4(日)	高清水地区市民	500人
鶯沢文化協会	鶯沢芸能発表会	12/2(日)	市民一般	200人
わかやなぎスポーツクラブ	歴史探訪史跡めぐり	11/24(日)	市内外の小学生～一般	27人
市民会議	少年の主張栗原大会	7/13(金)	中学生	230人
市民会議築館地区会	青少年健全育成のつどい	2/21(木)	築館地区市民	57人
築館各種女性団体連絡協議会	築館各種女性団体「女性の集い」	1/25(金)	築館各種女性団体(10団体)	120人
市民会議栗駒地区会 栗駒地区子ども会育成会	モデル子ども会実践発表会	3/1(金)	栗駒地区内子ども会	50人

評価

- B**
- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
 - B 概ね計画どおり目標が達成された。
 - C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

団体活動の自立支援は一部に留まった。 ➡ 主催・共催事業に見直しをかけ、団体育成に努めることにより自立化をサポートしていく。

5 学識経験者の意見
学習や文化的活動の成果発表の場は大変重要であり、その必要性を高く評価したい。学習・創作から発表まで一連なりになった講座があるとよいのではないかと。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興																				
	具体的施策	社会教育の環境整備と地域づくり活動への支援		担当課 社会教育課																				
1 目的																								
市民がいつでも、どこでも、だれでも生涯学習が展開できるように社会教育施設及び社会教育環境を整備し、活動の充実を図っていく。また地域課題解決に向けた学習に取り組み、さらに、活動の自立化を促す。地域活動に参画する地域のリーダーの育成を図るため、各種社会教育事業を展開するとともに、地区コミュニティ組織等との連携を図る。																								
2 具体的事業																								
施策を構成する事業																								
28「協働教育コーディネーター研修会」「学校支援ボランティア実践発表会」																								
事業概要																								
地域・家庭・学校が協働して地域の子どもたちを地域で育てる仕組みづくりを推進するため、学習指導者や、ボランティア育成の支援を行う。																								
3 平成24年度の取り組みと自己評価																								
取り組みと成果																								
地域の人材の掘り起しに繋げるべく、地域、学校、家庭を繋ぐ地域コーディネーター向けの研修会を新規に実施。ボランティアの実践発表会を行い、活動状況を市民に周知する場を作った。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>期日</th> <th>対象</th> <th>参加人数</th> <th>担当部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>協働教育推進委員会</td> <td>4/24 (火) 10/22 (月) 3/11 (月)</td> <td>協働教育推進委員</td> <td>20人</td> <td>社会教育課</td> </tr> <tr> <td>協働教育コーディネーター研修会</td> <td>7/18 (水)</td> <td>地域コーディネーター 学校コーディネーター 担当教諭、関係者</td> <td>21人</td> <td>社会教育課</td> </tr> <tr> <td>学校支援ボランティア実践発表会</td> <td>2/5 (火)</td> <td>市民一般</td> <td>70人</td> <td>社会教育課</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	期日	対象	参加人数	担当部署	協働教育推進委員会	4/24 (火) 10/22 (月) 3/11 (月)	協働教育推進委員	20人	社会教育課	協働教育コーディネーター研修会	7/18 (水)	地域コーディネーター 学校コーディネーター 担当教諭、関係者	21人	社会教育課	学校支援ボランティア実践発表会	2/5 (火)	市民一般	70人	社会教育課
事業名	期日	対象	参加人数	担当部署																				
協働教育推進委員会	4/24 (火) 10/22 (月) 3/11 (月)	協働教育推進委員	20人	社会教育課																				
協働教育コーディネーター研修会	7/18 (水)	地域コーディネーター 学校コーディネーター 担当教諭、関係者	21人	社会教育課																				
学校支援ボランティア実践発表会	2/5 (火)	市民一般	70人	社会教育課																				
評価																								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。																							
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																								
学校支援ボランティアの登録者が少なかったことにより、調整役としての地域コーディネーターの役割負担が大きかった。		➡	教育センター等に相談できる体制づくりを強化する。																					
5 学識経験者の意見																								
市外の大学生の参加を募る等、学校支援ボランティアの充実を図るのはいかがでしょうか。																								

施策体系	基本針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会	基本目標	いつでも、どこでも、だれでも学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や機会の提供		担当課 社会教育課
1 目的				
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
29「青空大使派遣事業」				
事業概要				
市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施する。現地研修として学校訪問、ファームステイ体験、熱帯雨林やグレートバリアリーフの大自然に触れる。国内研修では、実践英会話学習や交流会の企画、自主研修準備を行い、帰国後は研修報告を行う。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>中学生20人が参加し、国内研修（6回）及び海外研修を行った。</p> <p>国内研修においては、海外の研修先で安全に過ごすための団体行動や、生活上の注意、英語での日常会話、ファームステイ先での過ごし方等を学習した。海外研修では現地中学生との交流、ファームステイ、「熱帯雨林地域」での植樹や世界遺産の「グレートバリアリーフ」に触れ、自然資源を維持することの大切さを学んだ。</p> <p>参加した中学生は、この研修で体験したことが、日本以外の国に対して興味・関心を持つきっかけとなった。また、現地の同年代の学生と交流することにより、さらなる国際力の必要性を身を持って体感し、ファームステイでは、語学力とコミュニケーション能力の向上、世界遺産を活用した環境教育では、環境保護への理解等、多くの成果が得られた。</p>				
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。 B 概ね計画どおり目標が達成された。 C 課題があり、改善を要する。			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
海外研修において、現地学生やファームステイ先での交流活動の時間が少なかった。		➡	交流事業に重点を置いた海外研修とするため、計画の見直しを図る。	
5 学識経験者の意見				
「大使」として、宮城・栗原のことを海外に発信する役割も意識したい。				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	地域に根ざした文化芸術の推進																																																																				
	具体的施策	文化芸術の推進		担当課 社会教育課																																																																				
1 目的																																																																								
市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。																																																																								
2 具体的事業																																																																								
施策を構成する事業																																																																								
30「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチ(注1)ほか各種芸術鑑賞会」 (注1)音楽アウトリーチ・・・プロのアーティストを学校等に派遣して、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う音楽の普及活動。																																																																								
事業概要																																																																								
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会、文化講演会などを開催する。また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。																																																																								
3 平成24年度の取り組みと自己評価																																																																								
取り組みと成果																																																																								
優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることができ、地域文化の創造に努められた。																																																																								
<table border="1"> <tr> <td colspan="4">社会教育課実施事業 (16事業) 参加人数 11,443人</td> </tr> <tr> <td>栗原文化会館震災復興記念芸術祭</td> <td>450人</td> <td>時代を担う子どもの文化芸術体験事業</td> <td>94人</td> </tr> <tr> <td>第75回河北美術展栗原展</td> <td>2,283人</td> <td>美術ワークショップ「アクリルボールでまんまる世界を写そう」</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>次代を担う子どもの文化芸術体験事業</td> <td>207人</td> <td>小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会</td> <td>1,915人</td> </tr> <tr> <td>小学校1年生～4年生芸術鑑賞会</td> <td>1,843人</td> <td>心にきざむ 文化講演会</td> <td>400人</td> </tr> <tr> <td>仙台フィルマイトウンコンサートin栗原</td> <td>383人</td> <td>第1回栗原地区吹奏楽祭</td> <td>950人</td> </tr> <tr> <td>宮城県巡回小劇場</td> <td>632人</td> <td>けやきステージ2013 館野泉ピアノコンサート</td> <td>284人</td> </tr> <tr> <td>大山日出男氏と栗原市内小中高校生との合同演奏会</td> <td>592人</td> <td>音楽アウトリーチ事業「近藤和彦 ジャズトリオ」公演</td> <td>274人</td> </tr> <tr> <td>青少年劇場小公演</td> <td>517人</td> <td>第6回栗原市写真展</td> <td>547人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">栗原文化会館実施事業 (6事業) 参加人数 4,181人</td> </tr> <tr> <td>宮城水彩展「栗原展」</td> <td>803人</td> <td>栗原書道展</td> <td>370人</td> </tr> <tr> <td>栗原市工芸展</td> <td>417人</td> <td>栗原市美術展</td> <td>439人</td> </tr> <tr> <td>みてけらいん美術展</td> <td>512人</td> <td>藤あや子コンサート</td> <td>1,640人</td> </tr> <tr> <td colspan="4">若柳総合文化センター実施事業 (6事業) 参加人数 3,024人</td> </tr> <tr> <td>親子芸術鑑賞会</td> <td>552人</td> <td>クリスマス大爆笑ライブinくりはら</td> <td>247人</td> </tr> <tr> <td>ダンスフェスティバル2012</td> <td>681人</td> <td>わかやなぎ音楽祭</td> <td>485人</td> </tr> <tr> <td>劇団四季ミュージカル公演</td> <td>449人</td> <td>春の祭典「民謡と舞踊」 “流派の集い”</td> <td>610人</td> </tr> </table>					社会教育課実施事業 (16事業) 参加人数 11,443人				栗原文化会館震災復興記念芸術祭	450人	時代を担う子どもの文化芸術体験事業	94人	第75回河北美術展栗原展	2,283人	美術ワークショップ「アクリルボールでまんまる世界を写そう」	72人	次代を担う子どもの文化芸術体験事業	207人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	1,915人	小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	1,843人	心にきざむ 文化講演会	400人	仙台フィルマイトウンコンサートin栗原	383人	第1回栗原地区吹奏楽祭	950人	宮城県巡回小劇場	632人	けやきステージ2013 館野泉ピアノコンサート	284人	大山日出男氏と栗原市内小中高校生との合同演奏会	592人	音楽アウトリーチ事業「近藤和彦 ジャズトリオ」公演	274人	青少年劇場小公演	517人	第6回栗原市写真展	547人	栗原文化会館実施事業 (6事業) 参加人数 4,181人				宮城水彩展「栗原展」	803人	栗原書道展	370人	栗原市工芸展	417人	栗原市美術展	439人	みてけらいん美術展	512人	藤あや子コンサート	1,640人	若柳総合文化センター実施事業 (6事業) 参加人数 3,024人				親子芸術鑑賞会	552人	クリスマス大爆笑ライブinくりはら	247人	ダンスフェスティバル2012	681人	わかやなぎ音楽祭	485人	劇団四季ミュージカル公演	449人	春の祭典「民謡と舞踊」 “流派の集い”	610人
社会教育課実施事業 (16事業) 参加人数 11,443人																																																																								
栗原文化会館震災復興記念芸術祭	450人	時代を担う子どもの文化芸術体験事業	94人																																																																					
第75回河北美術展栗原展	2,283人	美術ワークショップ「アクリルボールでまんまる世界を写そう」	72人																																																																					
次代を担う子どもの文化芸術体験事業	207人	小学校5年生～中学校3年生芸術鑑賞会	1,915人																																																																					
小学校1年生～4年生芸術鑑賞会	1,843人	心にきざむ 文化講演会	400人																																																																					
仙台フィルマイトウンコンサートin栗原	383人	第1回栗原地区吹奏楽祭	950人																																																																					
宮城県巡回小劇場	632人	けやきステージ2013 館野泉ピアノコンサート	284人																																																																					
大山日出男氏と栗原市内小中高校生との合同演奏会	592人	音楽アウトリーチ事業「近藤和彦 ジャズトリオ」公演	274人																																																																					
青少年劇場小公演	517人	第6回栗原市写真展	547人																																																																					
栗原文化会館実施事業 (6事業) 参加人数 4,181人																																																																								
宮城水彩展「栗原展」	803人	栗原書道展	370人																																																																					
栗原市工芸展	417人	栗原市美術展	439人																																																																					
みてけらいん美術展	512人	藤あや子コンサート	1,640人																																																																					
若柳総合文化センター実施事業 (6事業) 参加人数 3,024人																																																																								
親子芸術鑑賞会	552人	クリスマス大爆笑ライブinくりはら	247人																																																																					
ダンスフェスティバル2012	681人	わかやなぎ音楽祭	485人																																																																					
劇団四季ミュージカル公演	449人	春の祭典「民謡と舞踊」 “流派の集い”	610人																																																																					
評価																																																																								
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。																																																																							
	B 概ね計画どおり目標が達成された。																																																																							
	C 課題があり、改善を要する。																																																																							
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針																																																																								
市民のニーズの多様化に対応した事業等を選定する必要がある。		➡	多くの市民から意見を取り入れ、幅広いジャンルから選定し、事業等を実施する。																																																																					
5 学識経験者の意見																																																																								
小中学生対象の催しについては、可能な範囲で子どもたち自身にも運営に携わってもらうことを検討してはどうか。貴重な社会教育的機会となると思われる。																																																																								

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進									
	具体的施策	文化財の保存・愛護と活用の推進		担当課 文化財保護課									
1 目的													
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。													
2 具体的事業													
施策を構成する事業													
31「埋蔵文化財発掘調査事業」「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」													
事業概要													
埋蔵文化財発掘調査を行い、遺跡の解明、記録保存をする。また、伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人に対しての活動を支援並びに史跡・天然記念物等保護活動に対する支援策として補助金を交付する。													
3 平成24年度の取り組みと自己評価													
取り組みと成果													
<p>埋蔵文化財の開発行為等に伴い、やむをえず破壊される埋蔵文化財の記録保存を主とする事業であり、これらの調査、成果を公表することにより、市民の埋蔵文化財に対する理解を得ることができた。また、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）及び隣接地において道路・水路整備・市設置型合併浄化槽等の公共工事や民間の宅地・工場造成、個人住宅等の開発事業に伴い、発掘届出（一般）、発掘通知（公共機関）を受理し、県教育委員会の指示のもと確認調査及び事前調査を行った。</p> <p>確認調査：遺構等の有無を確認する調査、事前調査：本発掘調査 40件 発掘届出（一般）、発掘通知（公共機関等） 104件を受理。</p> <p>伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人並びに史跡・天然記念物等保護活動を行う個人・団体に対し補助金を交付し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や会場使用料など、活動費の一部を補助することで、その負担を軽減し、活動支援を行うことができた。</p> <p>補助金の交付状況</p> <table border="0"> <tr> <td>史跡・天然記念物等保護活動に対する補助金</td> <td>1団体2個人</td> <td>262,000円</td> </tr> <tr> <td>民俗文化財保存伝承に対する補助金</td> <td>1個人</td> <td>95,000円</td> </tr> <tr> <td>無形民俗文化財保存団体に対する補助金</td> <td>12団体</td> <td>445,550円</td> </tr> </table>					史跡・天然記念物等保護活動に対する補助金	1団体2個人	262,000円	民俗文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円	無形民俗文化財保存団体に対する補助金	12団体	445,550円
史跡・天然記念物等保護活動に対する補助金	1団体2個人	262,000円											
民俗文化財保存伝承に対する補助金	1個人	95,000円											
無形民俗文化財保存団体に対する補助金	12団体	445,550円											
評価													
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>												
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針													
伝統技術や民俗芸能を継承する団体の後継者が不足している。		➡	聴き取り調査等により現状を把握し、担い手の育成のために必要な支援を行っていく。										
5 学識経験者の意見													
文化財や芸能の保存・保護は重要な活動であるが、さらにそれらの活用まで視野に入れ、情報発信することが望まれる。													

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・愛護と活用の推進		担当課 文化財保護課
1 目的				
先人が残した貴重な文化遺産を正しく理解し、大切に保存・保護し活用を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業				
32「史跡伊治城跡調査事業」「文化財保護保存事業」				
事業概要				
史跡伊治城跡公有化のための土地購入と史跡山王圀遺跡等の整備を行う。文化財普及啓発事業としては、既存標柱・説明板の修繕、各種研修会への講師派遣、古文書解読講座の開催、広報に「文化財散策」を掲載。				
3 平成24年度の取り組みと自己評価				
取り組みと成果				
<p>○史跡伊治城跡公有化については、公有化予定面積48,000㎡（史跡指定面積の約50%）の内、総公有化面積が35,905㎡となり、公有化率は74.80% になった。</p> <p>○史跡山王圀遺跡整備事業については、平成24年度で10ヶ年整備事業（さく井給水工事・解説施設製作設置工事）が終了し、報告書（300冊）を刊行した。</p> <p>○文化財普及啓発事業については、既存の文化財標柱・説明板の修繕、撤去を実施。市内の各種研修会や市内小中学校総合学習等への講師派遣（10件）した。古文書解読は3回開催し、講座の開催し、延98人が受講した。</p> <p>そのほか、市内文化財リーフレット第6集の作成（市指定文化財）、広報に「文化財散策」を毎月1日発行号に掲載した。</p>				
評価				
B	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。</p> <p>C 課題があり、改善を要する。</p>			
4 平成25年度に向けた課題・今後の方針				
整備事業終了後の史跡の活用について、住民参加型の運営を行い活性化を図る必要がある。		➡	遺跡整備指導委員会の指導助言を仰ぎながら、市民の意見を反映した活用計画を作成する。さらに、気軽に利用しやすい事業を展開しながら周知を図っていく。	
5 学識経験者の意見				
前頁と同様、今後の史跡活用のための事業展開が望まれる。				

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツ	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の推進		担当課 社会教育課

1 目的

スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。

（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。

2 具体的事業

施策を構成する事業

33「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」「体力・運動能力調査」

事業概要

市民の健康増進・体力向上を図るため、各種団体及び関係機関と連携し、スポーツ大会等を開催する。また、選手の育成支援のため「目指せ！日本一」や「やったね！日本一」スポーツ推進事業として全国大会参加経費等を助成する。

3 平成24年度の取り組みと自己評価

取り組みと成果

○スポーツ大会等の実施状況

・各種大会等を開催することにより、参加者の健康増進及び体力向上が図られた。

事業名	期日	対象者	参加人数	
			H24	H23
小学生陸上競技交流大会	6月10日	市内小学校4年生以上	515人	526人
くりこま高原高等学校陸上競技選手権大会	8月4日・5日	県内、岩手県南、秋田県湯沢市周辺高校生	691人	中止
宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭	8月19日	小学3年生以上の市民	600人	600人
栗原市民マラソン大会	11月11日	小学生以上	637人	450人
体力・運動能力調査	5月～10月	市内在住 20歳～79歳	57人	55人

○選手の育成支援事業

（1）「目指せ！日本一」スポーツ支援事業

・全国大会等に参加する団体・個人に対し、参加経費の一部助成を行ったことにより選手等の経費負担の軽減が図られた。

・交付実績

年度	事業費	件数
H23	2,756,000円	29件（団体26件、個人3件）
H24	4,321,000円	52件（団体32件、個人20件）

（2）「やったね！日本一」スポーツ活動支援事業

・全国大会等で優秀な成績を収めた団体・個人に対し、活動費の助成や競技用具の購入助成を行った。

・交付実績

年度	事業費	件数
H23	300,000円	1件（団体）
H24	50,000円	3件（個人）

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。
- B 概ね計画どおり目標が達成された。
- C 課題があり、改善を要する。

4 平成25年度に向けた課題・今後の方針

指導者の高齢化が進んできた。



NPO法人栗原市体育協会と連携し、成年層の競技者を指導者として育成に努める。

5 学識経験者の意見

今後は、指導者対象の研修会参加に助成する等の間接的支援も充実されたい。

3 学識経験者からの意見（総評）

I 学校教育にかかる部分に対する意見

（田幡 憲一氏）

個別の事業について、C評価がなく、すべてがA評価またはB評価となっていることは、担当者の努力のたまものである。

幼稚園教育については、教諭と補助教員の適正な配置が、「特別支援」、「預かり保育」、「教員研修」など多岐の課題にかかわる問題である。人員の量的な確保とともに、良質な労働力を確保し継続的に働いてもらうことも併せて考えていかなければならない。限られた予算の中で良質な労働力を確保するためには、「働きがいのある職場」をいかにつくるのか、方策が求められる。

小・中学校については、ここ数年で大きく統合再編が進んだ。効果的な学校教育にはある程度の児童・生徒数が必要である。一方、丁寧且つ粘り強い説明ときめ細かな対応によって地域の理解を得なければならない、難しく持続力の必要な課題である。担当者諸子の努力に敬意をはらいたい。今後、質の高い教育を持って地域の理解に応える必要がある。即ち栗原市の小中学生の学力向上を企図した教育である。教員の授業改善に関わる積極的な活動が核とならない限り、かかる教育は実現できない。設置が予定されている教育研究センターにはこのような活動を助長することを期待する。

普通教室での特別な支援を要する児童・生徒への理解が進み、対応がある程度、体系化しつつある。特別な支援を要する児童・生徒およびその対応に関する、特別支援コーディネーターを中心とした、組織的な理解に基づいた学校の活動が必要とされるようになった。「教育相談員」「スクールカウンセラー」などの配置には一定の成果が見られるが、精神医療の専門家の恒常的な支援体制も整備していく必要がある。

幼稚園、小、中学校を通してすべての学校で「防災マニュアル」が整備されている。岩手・宮城内陸地震、東日本大震災に連続して見舞われた栗原市の学校の防災意識の高さを示すものである。一方、小、中学校ではPTAや地域・行政のいずれかが関わった避難訓練を実施していない学校も多い。避難訓練を踏まえた不断のマニュアルの改善が必要である。防災に係る地域との連携も重要な課題であるが、地域との連携自体を目的化せず、飽くまで園児、児童、生徒および教職員の安全確保が目的であるという学校の立場を、常に意識する必要がある。

Ⅱ 社会教育にかかる部分に対する意見

(久保 順也 氏)

いずれの事業もB評価であり、概ね計画通り目標が達成されていることは肯定的に評価できる。その上で、今後への期待を含め、事業全体への意見を以下に述べたい。

事業の中には、開始後年月が経過し、定例行事となっているものもあると思われる。市民に定着しているという意味では肯定的に評価できるが、事業の実施自体が目的化してしまう恐れもある。そこで、各事業へのコメントにも挙げたように、「事業成果の活用」へと歩を進める必要があると思われる。たとえば、事業で養成した家庭教育サポーターやジュニア・リーダーを今後どのような場で活用していくのかについて、参加者が自ら主体的に関わる中で活動方針等を決定できるような仕組み作りも工夫されるとよいのではないだろうか。同様のことは、文化財の保存・保護に関する事業についても指摘できる。貴重な文化財を、まずは市民に知ってもらうことも重要な事業であるが、さらに市民の参加を得た上で、史跡活用・情報発信についての具体的方法について検討を進めることが今後は必要であろう。

また、生涯教育関連事業においては、対象や地域が細分化され過ぎると閉鎖的な構造となってしまう恐れがあるため、各事業間の連携や共催の回を導入することにより、より開かれた自由度の高い学びの場を設定することが可能となると思われる。さらに地域間・世代間の交流も促進されるのではないだろうか。

市民が参加する学習や創作に関する継続事業においては、その成果発表の場が設けられることによって参加・創作意欲が増し、また参加者自身が事業成果を自己点検できる機会となり、さらに新たな参加希望者の発掘につながるため重要な機会となる。このような成果発表機会の更なる充実を期待したい。

4 栗原市教育委員会としての今後の方向性

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、本市教育委員会として5回目となる教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価（以下「点検・評価」と記載）を、昨年度に引き続き、学識経験者として宮城教育大学からお二人の先生にご意見をいただき実施しました。

昨年度の「点検・評価」の課題として、評価事務事業等の見直しの必要性が指摘されていたことから、今回は、これまでの「栗原市総合計画の基本計画の施策体系に分類した事務事業」から「栗原市教育基本方針に基づく具体的施策に対して実施した事務事業」へと対象事業の考え方の見直しを行うとともに、報告書の構成や表現方法を誰がみても分かりやすいものにとという視点で作成しました。

今年度の「点検・評価」については、いずれの事業についてもA評価またはB評価となっていることは、概ね計画通り目標が達成されているものとの評価をいただきました。その上で、学校教育にかかるものについては、今後、質の高い教育をもって地域の理解に応える必要があり、今後設置が予定されている教育研究センターへの期待が寄せられております。

また、社会教育にかかるものについては、各事業の実施自体が目的化してしまう恐れがあることから、事業成果の活用の必要性について指摘がありました。

今回は、それぞれの事業への個別の意見もいただくことができましたので、課題のあったものについては、それらを活かしながら引き続き改善に取り組んでいきたいと考えております。

今回の「点検・評価」の結果を市議会はじめ、市民の皆さまに報告・公表することにより、常に事業の有効性についての意識を持ちながら、更なる教育行政の推進と事業の充実に努めてまいります。